

スノボ成田緑夢 しっかり支える

大阪の理学療法士、滑り方助言も



あす開幕

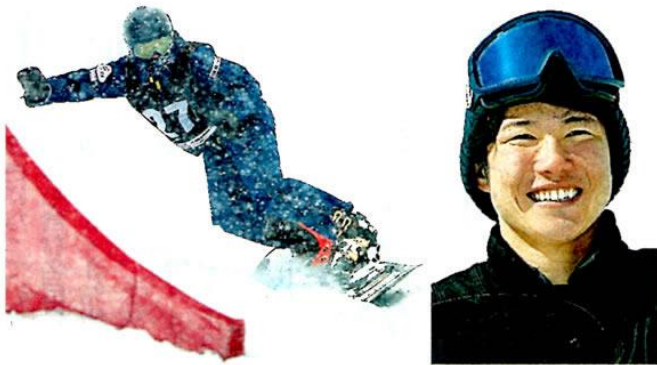
平昌パラリンピックが9日、開幕する。日本代表で活躍が期待される一人が、スノーボード競技に出場する成田緑夢(24)＝近畿医療専門学校。地元大阪で支えてきた人たちもエールを送る。



成田緑夢をサポートしてきた理学療法士の東山学史さん(右)、石田文香さん(中央)、山岡明広さん＝大阪市淀川区

成田の思いに共感

大阪市出身の成田は、2006年のトリノ五輪スノーボードの兄の童夢さんと姉の今井メロさんがいる「スノボ3きょうだい」の末っ子。トランポリンやスキーでも活躍したが、13年にトランポリンの練習で着地に失敗。左足のひざから下を動かせなくなる障害を負った。その後、パラリンピック出場を目指してき



成田緑夢(左)全国障がい者スノーボード選手権大会予選に出場した成田＝2月、長野県

た。所属先の近畿医療専門学校は海外遠征費などを支援してきた。同校の小林英健理事長(59)が出会ったのは3年前。左足をかばって生じる体のゆがみに悩む成田の骨格矯正をしたことがきっかけだった。以来、ほぼ毎月通ってきた成田から16年末に援助を請われた。「周囲を笑顔にしたい」との思いに共感した小林さんは「力になれるなら」と快

「逆に勉強になる」
成田らスノボ日本代表チームのトレーナーとして選手たちを支えるのは、大阪回生病院(大阪市淀川区)の理学療法士たち。東山学史さん(30)と山岡明広さん(27)、石田文香さん(32)の3人は遠征や合宿にも同行してきた。一緒に雪上に出て、滑り方の助言もしている。

身体能力が高く、多少無理な体勢でもうまく滑れるという成田。ケガ予防のため、テーピングを施す際には動きたいイメージを詳細に聞き取る。石田さんは「自分の体の状態をうまく言葉にできる。テーピングの巻き方を逆に助言されることもあり、勉強になる」と笑う。

「思いついたことをすぐ実行する成田。『海外のトップ選手から直接学ぶ語学力を身につけたい』と大阪市内の外国人が多く住むシェアハウスに移り住み、『雪の状態がよく見えるように』とレーシック手術を受けた。小林さんは『どんな局面でも落ち込まない精神力がある。普段通り臨めば結果もついてくる』と太鼓判を押す。

成田は移動中の車や宿舎でも左足の固定方法や右足の使い方などについて、思いついた疑問やアイデアをすぐ周囲に投げかける。関節が動く人形を使い、イメージを伝えることもある。その姿勢に山岡さんは「あまりに熱心で気付くとみんなが引き込まれている。熱意に応えられるようこちらも必死です」と明かす。

かっこいい姿 注目

デジタル版に特集